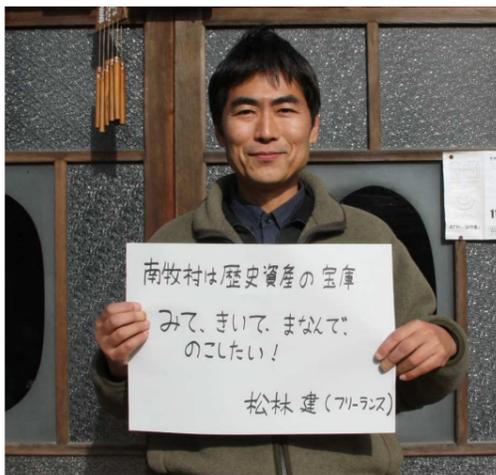


なんもく 山村ぐらし通信

あのマツケンがやってきた? —new— むらびと&協議会メンバー紹介



星尾地区の古民家に移住して4ヶ月の新人です。姓は松林・名は建!人呼んで「マツケン」あのマツケンということでお見知りおきを!

「なんもく村の 古い写真を探しています!」

「協力ください」昔の南牧村の様子や生活を記録した古い写真を探しています。写りが悪くても、折れて曲がっていても大丈夫!いちど抽斗の奥を覗いてみてください。連絡は役場村づくり雇用推進課 高柳まで

村営住宅での暮らしはいかが?

～地域おこし協力隊・谷津順子さん～

南牧村でどんな暮らしがしたいのか?自分が地域おこし協力隊として移住を決めた時、まず先ほどの問いが常に頭の中にありました。ただ、実際には移住するまでの期間が短く、頻りに村に通えなかった事情もあって、古民家ではなく村営住宅への入居を選択しました。

地元のコミュニティ集落)の皆さんが温かく受け入れてくれたこと」近所に先輩移住者が住んでいることへの安心感」近所の方のご好意で畑を借りられたこと」役場まで歩いて行ける距離だったこと 移住直後の移動手段は徒歩か自転車」暮らし易い間取りのため」ストレスなく暮らせた」駐車場が完備されていること」ちよつとビックリ」水道などライフラインがスムーズに使用できた。」実際にかかる生活費の比較がしやすかったこと」私

もちろんこの感想は、あくまで単身移住してきた自分のほんの一例に過ぎません。ご家族がいる方や、年代が違えば、また感じる点も変わってくるでしょう。移住」という新しい行動を起こすには、思い切りや勢い」も重要な要素だと思えますが、その前の情報収集や、ご家族との話し合いが大切だと思えます。特に現地に足を運んで、自分の感じることを信じてください。最後に、先述した問いについての答えは、ぼんやりですが自分の中に見えてきました。その詳細については、次の協力隊新聞でご報告できたらと思います。

2018(平成30)年2月発行
通巻第24号版(冬季号)

発行責任者及び発行元:
南牧山村ぐらし
支援協議会
問合せ:南牧村役場
村づくり・雇用推進課
協議会事務局
電話:0274-87-2011(代)

紙面編集:広報FM



協議会QRコード
協議会HP
<http://nanmoku.org/>
活動内容や各種情報が
随時更新中!

【29年度10～12月 空家問合件数】

電話による問合せ	16件
10月	5件
11月	6件
12月	5件
メール・手紙・FAXでの 問合せ	24件
10月	10件
11月	7件
12月	7件
現地物件見学案内	22件
10月	8件
11月	7件
12月	7件

【協議会ウェブサイト 訪問・閲覧状況報告】

※10/24～(約90日間)

ページ閲覧数	62,240
サイト訪問数	5,403
サイト訪問者数	3,594 (同一人は1とカウント)
平均ページ閲覧数	11.52ページ 1訪問当たり

10/29(日)東京有楽町で開催された県主催の「やんま暮らしフェア」に他の協議会メンバーと共に、地方移住を目指す人に南牧村をPRするため参加してきました。同フロアで福井県の移住フェアも...。当日は生憎の台風のため、人の出は少なく、私たちのいた南牧村ブースを訪れたのは3組と少なかつたのですが、それでも今後の取り組みのヒントは得られたと感じています。移住コーディネートターの重要性、

10・29東京有楽町 ぐんま暮らし相談会に参加 生憎の雨模様でした...

台風の大雨の中、東京・有楽町で開催された「やんま暮らしフェア」に初めて南牧村のメンバーとして参加してきました。移住相談では、南牧村に関心がある方向けに、私の移住体験、村の魅力を伝えることができました。雨模様にも関わらず会場内は賑わっており、私自身も知りたいと思える群馬県の仕事の情報、魅力、移住に関するセミナー



ーが開催されていたので、とても収穫があるイベントに参加することができたと思います。また、このような機会があれば是非とも参加したいです。ただ、次回は天気の良いときに参加したいな。カゴロク寄稿

協議会会長 金田鎮之
新春の陽をあびる南牧谷を見渡して、昔はここにもあそこにも煙が棚引いていたのかな。」と物思いに耽ってしまいました。会員、村行政及び村民の皆様のご理解とご協力のもと、当会が活動しておりますことこの場を借りて御礼申し上げます。この会の活動は、なかなか成果が目に見えないものではありませんが、地道に歩んでいくしかないと思っております。この山村ぐらし通信」も活動の一環で、年4回村民の皆様のお手元と、関係各所へ配布させて頂いております。その文面には会の活動はもちろん、南牧の自然や歴史を会員目線取材し掲載。また、ホームページ閲覧数や各問合せ件数を載せてあります。この通信が皆様のお手元に届く事により、活動のみならず南牧の地に、より「層愛着を、そして明るさを持つて頂けたら幸いです。ところどころで昨年の「今年の漢字」は「北」でしたが、今年には是非とも「明」や「賑」になるようにしたいものです。思いつくまま筆を走らせた拙い文ではありますが、協議会より 新年の挨拶とさせていただきます。今年も一年、当会を宜しくお願いします。

新年の挨拶

協議会広報チーム
早いもので、2018年もひと月終わりました。広報チームは、お正月からこの号の発行に向けて密かに活動しておりました。この他にも当会のWebや、南牧村の日々の出来事を綴る「なんもく四季報」などに携わらせて頂いております。年4回発行のこの山村ぐらし通信、村民の皆さまに周知されているでしょうか。この通信は、村内のあらゆる出来事や、ひと・モノなどを取り上げ、さまざまな視点でお伝えしていく媒体です。村内外の皆さまにこの通信を受け取って頂き、どんな想いをもって読んで頂いているのか。想像するだけで心拍数が上がりそうです。皆さまのお茶飲み会のネタになるような通信になるように...と、これからも取り組んでいきます。今年も宜しくお願いいたします!
家屋・調査チーム
協議会の精鋭実働部隊と呼ばれている家屋&調査チーム
ウラ面に続きます。

国登録有形民俗文化財である。

南牧村民俗資料館んぽ!



山村ぐらし通信の作成に携わっている、南牧の昔の人々の生活や功績を知ることがあります。南牧で生まれ、生活をして居ても知らないことがたくさんあるなあ...と感ずきます。また、子供のころに学校の授業で学んだことも、大人になって違う視点で捉えてみると新たな発見があったりと興味をそえられる事があります。今回、協議会メンバーとの会話の中で、民俗資料館って行ったことある?という話題からふと考えた私。行ったことあるけど

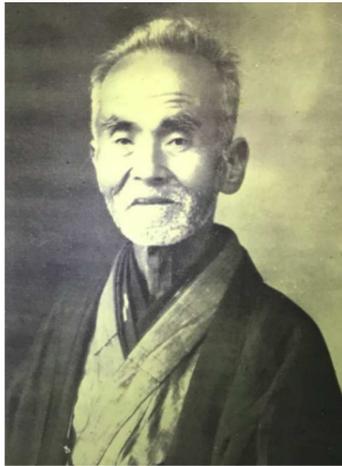
当時は子供だったし、展示しているものも身近にある物だったので、深く考えることがありませんでした。よし!この機会にまた行ってみよう!と車を走らせました。玄関のドアを開け、ヒンヤリとしたスリッパを履いて最初に目に入った展示品がこんにやくに関する道具たちでした。という事で、今回のテーマは『こんにやく』に関わった南牧の偉人について小学生に戻った気分です!

学んだことその①「南牧村大日向出身

の茂木正峯が室町時代に和歌山からこんにやく玉を持ち帰り薬用として栽培する。はあくこんにやくって室町時代からあったんだあ...って何年前?

学んだことその②「正峯の分家筋に当たる茂木平八 夫日向出身」が、その後明治初期、こんにやく栽培を南牧 下仁田に広める。(へえこんにやく栽培は南牧の人が下仁田にも広めたんだ。なんか、ちょっと自慢かも。)

学んだことその③「今井憲三郎 雨沢出身」こんにやく切り機『今井式』を開発、全国に広める。ほお、全国に広まるような道具を南牧の人が考えたなんてすごいなあ。



②こんにやく栽培の父と呼ばれている、この方は?

憲とこんにやく下仁田名産』と言われるますが、実際は南牧の特産品で、南牧から広まった物もあったということになります。さらながら学んだ私でした。

本日はもっと詳しく紹介され、資料として残されていますが、紙面の都合上大幅な省略をさせて頂きました。皆さんも時間を作ってぜひ民俗資料館に足を運んで南牧村の『へえ』や『ほお』を体感してみてくださいいかがでしょうか。

〜知りたがり取材チーム〜

村人からの投稿

南牧村にきてから

帰宅時に星空を見上げる癖ができました。

このころは、5年ほど前 様のありがたさをしみじみ

から村にお邪魔していただき 実感しています。沢浴いす今井と申します。 時節柄 の家に日が当たらなくなる

の話題になってしま

うのですが、こちら

で暮らし始めてお日

の話題になってしま



氷瀑なのに雪がない! 微妙な違和感が素敵です

冬、夏の日差しを思い出しながらストーブに火を入れて洗濯物を乾かします。もちろん使っている薪も日光がなければ育たない。そして、目の前の川を眺めれば、

このおいしい水も太陽の力が山にやって来ているんだなあ...と。もちろん、畑のものたちは天候の影響を切実に受けているし。んー、太陽がなければ生き物は

存在できない」という事実が目のある素敵な世界なんだなあ...と、ここで暮らせる妙味をかみしめているところです。



珍しいヘビですが、南牧村には普通にいます



上峠には早くも雪が積もっており、ここまで上ると南牧村の山々を覆う杉も見当たりません。そこから自然公園まで下ると、正面には下仁田町へつながる山々が見渡せる広大な景色が広がります。大上峠は現在は綺麗に整備されましたが、南牧村史によれば昔は自然公園から西へ延びる余地峠の方が生活の道として慣れ親しまれ、長野県側からは米が、南牧村側からは砥石やこんにやく玉、真竹などの産物が頻りに運ばれる交通の要衝だったようです。次に向かった田口峠から馬坂川に沿った道を下ってくると、急峻な土地に耕された段々畑と馬坂の集落が出現します。深閑とした山あい聞こえてくるのは川のせせらぎの音だけ。山の斜面で柚の収穫に忙しい村の人。民家の屋根の煙突から昇る煙を見ると夕餉の匂いさえ感じられます。こうした光景を目の当たりにして育ったことのない私ですが、どこかとても懐かしく感じられ、心にとろりと染み入るような、そんな感覚でした。

『ぶらいなんもく村』

〜南牧村にはどこか懐かしい風景がありました〜

折茂特派員寄稿

庶務チーム

2010年の12月に発足した山村ぐらし支援協議会。あれから早いもので8年目の活動に入る事になりました。活動には、なかなか関わった事に対するリターンを実感できるようなことは少なく、いま自分たちにできること、協議会で可能な活動を少しずつ少しずつ前に進め、サポートするためのさまざまな雑用係が庶務チーム。協議会として活動できる内容には限りがありますが、常に可能性を探り、自分たちにできることを継続性をもって取り組むことができるよう、限られたメンバーながらサポートにまわり、協議会の活動や、延いてはこの村の10年後、20年後の活力にわずかながらでも貢献ができるようにと願っています。少しずつ整理されてきている協議会の活動は、定まり過ぎないよう修正し、チャレンジしてみたり、ときにはゆっくりと立ち止まってみたいと柔軟に動きながらも浅からぬスリ跡を残して行ければと思っています。

事務局より

村づくり・雇用推進課の目標の一つとして、移住・定住人口を増加させることがあります。一昨年度に策定した「南牧村まち・ひと・仕事創生総合戦略」では、U1ターンの子育て世代の移住世帯を毎年2世帯受け入れることとしています。この目標の達成のためには、雇用、子育て支援などいろいろな受け入れ体制が必要となってきます。目立つものや目立たないものなど村内のあちこちで村づくりの取組みが行われています。このような「点」を「線」にするよう今年もさまざまな活動と協力しながら頑張りたいと思います。

← オモテ面からの続き。 →